

令和5年度 第3回羽島市立竹鼻中学校運営協議会 議事録

1	日時	令和6年3月22日（金） 午後1時30分～3時30分
2	場所	羽島市立竹鼻中学校 会議室（北舎1階）
3	出席者	<p>18名</p> <p>松下 友幸（会長 地域コーディネーター竹鼻町 不二羽島文化センター顧問） 小林 美雪（副会長 地域コーディネーター福寿町 元西部幼稚園園長） 小森 博昭（竹鼻町自治会長） 番 敏郎（福寿町自治会長） 牧野 貞臣（竹鼻コミュニティセンター館長） 田中安志郎（福寿コミュニティセンター館長） 高木 和秋（竹鼻南コミュニティセンター館長） 中畑 弘（竹鼻コミュニティセンター協議会長） 大野 仁作（竹鼻町民生児童委員会会長） 岩佐 和子（福寿町民生委員児童委員） 馬場まさ子（竹鼻町主任児童委員） 浅井 美子（福寿町主任児童委員） 大野 一明（竹鼻町青少年育成推進員） 松野 正治（福寿町青少年育成推進員） 大野 富生（竹鼻中PTA会長） 平松 信子（羽島市教育委員会教育支援センター） 森山 健（本校 校長） 安藤 宏（本校 教頭） 米口真由美（本校 主幹教諭）</p> <p style="text-align: right;">（敬称略）</p>
4	議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶（会長） 2. 校内参観 3. 学校運営について 4. 令和6年度の学校運営について 5. 意見交流 6. 令和6年度学校運営協議会委員及び協議会について 7. ご指導（羽島市教育委員会 教育支援センター） 8. 校長より 9. 閉会挨拶（副会長） <p>【生徒の様子について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と生徒の関係がよい。和やかな雰囲気であった。そういったことが学力状況調査での県や全国平均を上回る竹鼻中学校の結果につながっている。 ・不登校生徒の対応について、学力と家庭の経済力の二極化がみられる。地域ボランティアを活用し、学力定着の支援を整えるとよい。 ・子どもたちが興味をもって授業に取り組み、探求心を養う授業を大切にしたい。 ・子どもたちが楽しく授業に参加できている。やる気を引き出す工夫を大切にしたい。 ・どの生徒もスポーツフェスタや合唱フェスタに前向きに取り組んでいた。それらの活動を苦手と感じている生徒も巻き込んで創り上げていくことが大切である。 ・生徒の活気を感じる行事が多かった。 <p>【地域の活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアに積極的に参加する生徒が多い。また、ボランティアで働く生徒たちが小学生に丁寧に教えている姿もあった。 ・災害など、命が関わる時に誰にでも優しくなれる子どもの育成をしていきたい。 ・子どもたちを守ることが地域の使命である。子どもたちが安心して接することができるように、信頼関係の見える化を図っていくとよい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分で考えて行動している姿がたくさん見られた。 【施設面について】 ・竹鼻中学校区の子どもたちが増加している。10年後には子どもの数は減少傾向にあるかもしれないが、クラス数の増加に伴い、施設や設備が整えられていくとよい。 ・双眼実体顕微鏡を1人1台整備され、恵まれた環境で学習できている。 ・災害に備えて、実用性のある設備を整えるとよい。 【教職員に関わって】 ・業務内容の見直しをすることで先生方の負担軽減を図り、グランドデザインの具現化に取り組んでほしい。 ・学校運営協議会で話題になった生徒たちの頑張りを生徒や教職員に伝えていってほしい。 【部活の地域移行について】 ・運動部活動の地域移行に伴い、文科系部活動の地域移行を令和7年度には始動できるように、活動場所を確保していきたい。 【挨拶運動について】 ・交通安全のためにも、ぜひ活発に取り組んでいきたい。 ・令和6年度は毎月15日に行うPTAのあいさつ活動とも連携できるとよい。 【校長より】 ・中学生は様々なことを吸収し、考えて行動できる年齢である。教師が子どもたちから教わることも多く、子どもの主体性を大切に取り組んでいく。また、子どもたちの健全な育成に向けて今後とも努力していく。 ・学校の運営はそれぞれ地域の方々の支えがあって成り立っている。地域の中にある学校であることを意識しながら、今後の学校運営を進めていきたい。
5	決定事項	令和6年度学校経営方針の承認
6	連絡等	令和6年度 学校運営協議会委員 令和6年度 学校運営協議会日程（第1回令和6年5月3日予定）
7	教育委員会指導	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに視点をおいた指導であり、興味を引く授業に力点をおいている。さらに授業の中で認める言葉がけを大切にし、自己肯定感を育む努力をしたい。 ・教職員の支援や健康管理と教員の資質向上にも取り組んでおり、教職員を大事にしていることで、子どもたちの和やかな育ちにつながっている。 ・今後、対面での会議の開設の工夫をするとよい。